

平成11年度 英語学力テスト報告

- I 参加校と参加生徒数
- II 得点状況
 - 1. 総合点の分布状況
 - 2. 学校別平均点分布状況
- III 正答率グラフ
- IV 所見

茨城県高等学校教育研究会
英語部作問委員会

I 参加校及び参加生徒数

テストA 参加校数 66校 合計 16,206名

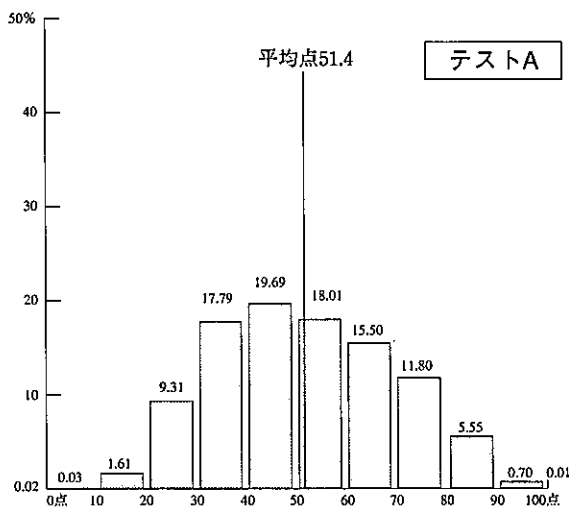
高萩、松丘、高萩工、日立商、科学技術学園日立校、太田一、佐竹、大子一、山方商、水戸商、水戸南、水戸桜ノ牧、常磐女子、大成女子、水戸女子、勝田工、海洋、笠間、大宮工、常北、東海、茨城東、鉾田一、鉾田二、鉾田農、麻生、潮来、鹿島、神栖、波崎、波崎柳川、鹿島灘、土浦三、土浦湖北、石岡一、石岡二、石岡商、小川、八郷、竜ヶ崎南、愛国学園竜ヶ崎、江戸崎、江戸崎西、取手一、取手松陽、藤代、藤代紫水、牛久、牛久栄進、筑波、つくば工科、岩瀬、下妻二、真壁、結城二、鬼怒商、石下、古河一、古河二、古河三、総和、境、岩井、岩井西、守谷、伊奈

テストB 参加校数 26校 合計 5,269名

松丘、佐竹、大子一、大子二、水戸一、水戸商、水戸桜ノ牧、常北、茨城東、鉾田二、潮来、鹿島、神栖、波崎、波崎柳川、石岡二、竜ヶ崎南、取手一、取手松陽、藤代紫水、牛久、岩瀬、境西、岩井、守谷、伊奈

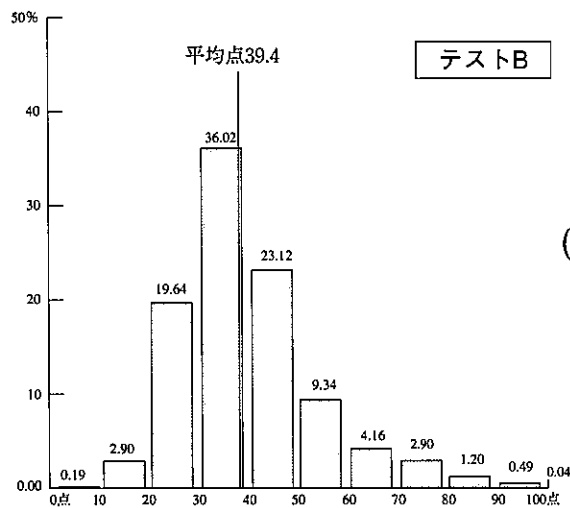
II 得点状況

1. 総合点の分布状況



得点	0	1～9	10～19	20～29	30～39	40～49
人数	3	5	261	1,508	2,883	3,191
得点	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	100
人数	2,918	2,512	1,912	899	113	1

受験者数 16,206 平均点51.4



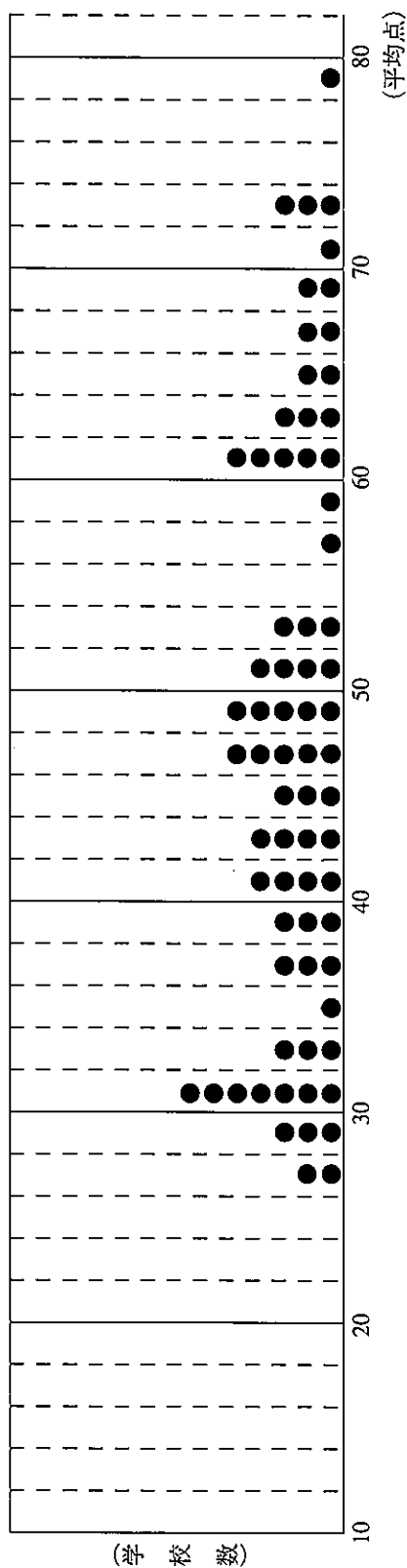
得点	0	1～9	10～19	20～29	30～39	40～49
人数	0	10	153	1,035	1,898	1,218
得点	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	100
人数	492	219	153	63	26	2

受験者数 5,269 平均点39.4

2. 学校別平均点分布状況

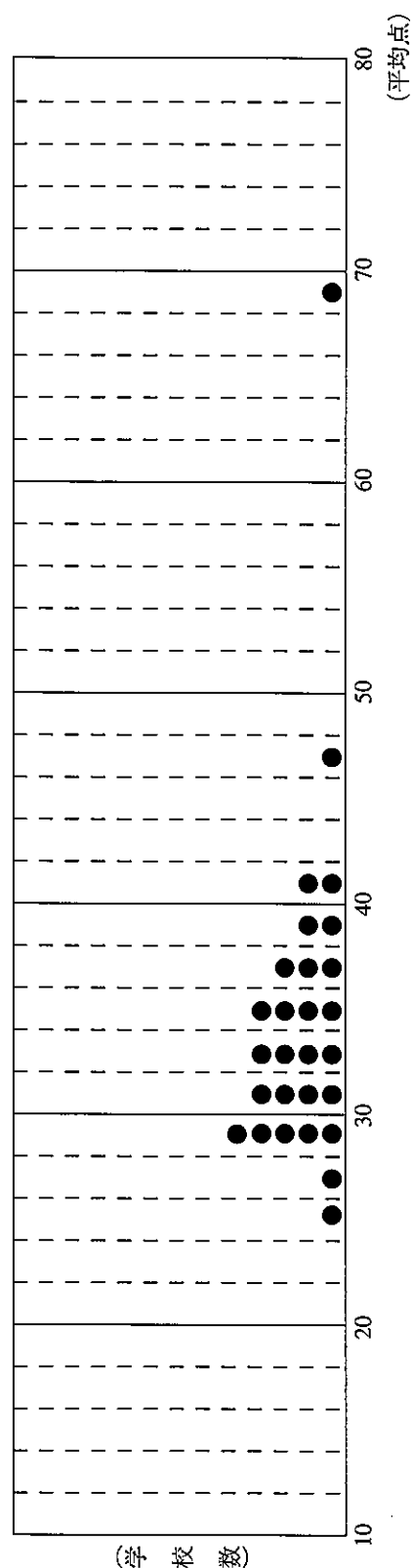
テストA

(同一校でコース別に分けた学校あり)

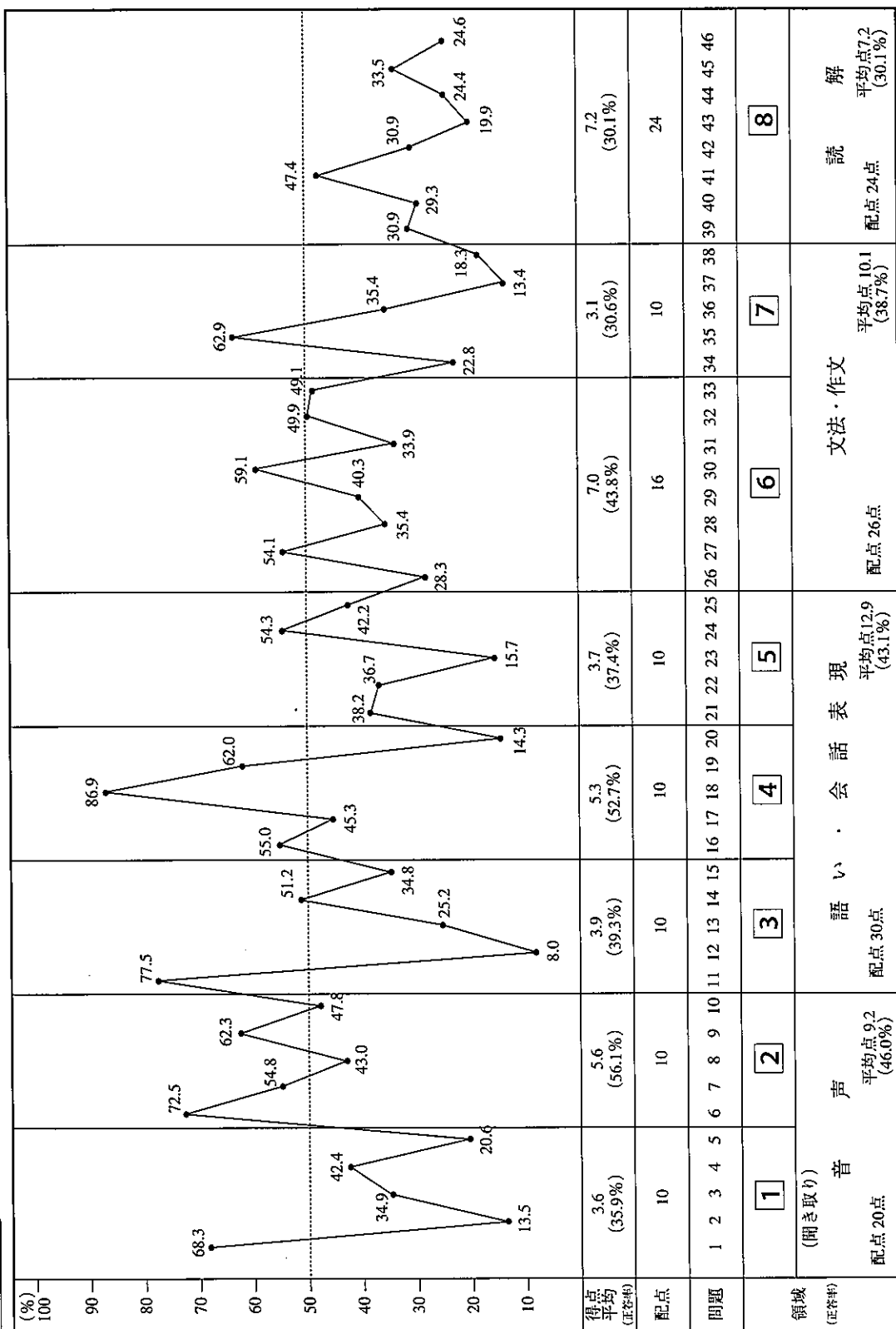


テストB

(同一校でコース別に分けた学校あり)



テストB



Ⅳ 所 見

テストA

〈音声〉

- 1 全体的に正答率は高かったが、(4)については、予想に反して低かった。的確に情報を選択する能力を高めることが大切である。
- 2 [ou] と [o:] の区別が難かしかったようである。カタカナ語の正確な発音を心がけたい。(9)については音声指導をする際に情報構造も考慮したい。

〈語い〉

- 3 いずれも使用頻度の高いものだが、予想したほど正答率は高くなかった。文単位で暗記させるなど工夫して正確に定着させたい。
- 4 時に(17)(19)(20)の正答率が低かった。中学校既習範囲の語いは早い段階で確認しておきたい。

〈会話表現〉

- 5 使用頻度の高い会話表現を確実に身につけさせたい。

〈文法〉

- 6 基本的な文法事項が良く理解されていて好ましい結果である。

〈作文〉

- 7 (34)の間接疑問文の問題や、(37)の want + 目的語 + to 不定詞の語順の問題が弱かった。

〈読解〉

- 8 内容を整理しながら読みとっていく能力が要求される問題である。(45)(46)の解答が分散した結果をみると、概要をつかむ力がさらに必要である。

〔全体的に〕

出題は例年通り、語い、語句、文法ともに、中学校ですべて履修した範囲からである。全般的によくできていた。さらに、語い力、読解力を向上させるための指導が必要とされる。

テストB

〈音声〉

1

(2) と (5) の正答率が低かった。(2) については、正確の to be quiet を to turn off the radio と理解するのが難しかったのかもしれない。(5) については、One year has passed since my arrival. が聞きとれなかったようだ。

2

昨年に比べて、全般的に正答率が高くなっている。(8) の studio のような、日本語化した単語の発音についてはより一層の定着が望まれる。

〈語い〉

3

(12) の care for を support と答えた生徒が70%以上もいた。基本的な熟語表現については、きちんと覚えさせたい。

4

全般的にはよくできていた。(20) の Tim is older than I by two years. の正答率が低かった。

〈会話表現〉

5

(23) の Do you mind if I close this window? の答として、No, please leave it open. が多かった。Do you mind mind if ~? に限らず英語の Yes-No の使い方には十分注意して指導したい。

〈文法〉

6

全般的によくできているが、(31) の The mountain can be seen があまりできていなかったように、今後一層の基礎・基本の充実が望まれる。

〈作文〉

7

全体的に、あまりよくできていなかった。特に、関係代名詞と無生物主語の問題がよくできていなかった。

〈読解〉

8

全体的な文章理解はよくできていたようだが最後のおちまで理解できていた生徒は少なかったようだ。選択肢が英文の場合、誤答・無答率が高くなっている。

〔全体的に〕

今回から熟語問題の選択肢を英語に代えた。単なる意味の暗記ではなく、状況から判断して適切な英語を使える能力を是非養いたいものである。また、今回の読解問題のようなユーモアのある英文なども使い、英語をもっと身近に感じられるような問題作成に心がけたい。

〔後 記〕

平成11年度第33回英語学力テストに多くの学校に参加していただき誠にありがとうございました。例年実施後に各学校にアンケートをお願いしておりますが、今年度はテストA実施校66校のうち64校、テストB実施校26校全校より回答をいただきました。その結果を簡単に報告いたします。

実施時期が「早い」と答えた学校はAが7校、Bが2校、他の学校はすべて「ちょうど良い」と答えています。テスト時間、聞き取り速度、発音に関してはA、B共に「ちょうど良い」がほとんどで、「短い」「速い」「遅い」「難しい」がA、Bそれぞれ1、2校でした。聞き取り難易度が「難しい」は、Bは2校でしたが、Aには4校ありました。語彙・会話、文法・作文、読解においては「難しい」と答えた学校が、Aではそれぞれ12校、Bではそれぞれ3校ほどありました。以上は先生方の視点からの回答ですが、テストの結果データからも同様のことが言えます。特に作文、読解は例年多くの生徒達にとって苦手な領域になっていることがわかります。

今年度の平均点は、A、B共に昨年度より1点ほどのダウンですが、Aが51.4、Bが39.4でした。ここ10年の平均点はAが47.3、Bは37.8で、上下の幅はA、B共におおむね±5点の範囲内にあり、あまり大きな変動はないと思われます。出題側にも受験側にもいくつかの要因の変化があるので、生徒の学力推移をどう見るかは簡単には言えませんが、先生方はどの様にとらえているのでしょうか。

委員会としては、中学校および英語Ⅰの教科書をもとに、難問、奇問を避けた基本事項の定着度を計るテストの作成を主眼としています。より多くの学校に参加・利用していただければ幸いです。今後とも先生方のご理解、ご協力をお願いいたします。

作問委員	塚田 歩 (日立北)	吉岡 浩 (佐 竹)
	小林 義則 (水戸桜ノ牧)	神賀 俊光 (那 珂)
	根本 雄一 (土浦一)	斉田 智里 (石岡二)
	山崎 美樹 (藤 代)	飯塚 秀樹 (三 和)
	豊島 卓 (境)	

過去5年間の英語学力テスト参加状況

		H. 11年度	H. 10年度	H. 9年度	H. 8年度	H. 7年度
A	参 加 校	66校	70校	76校	76校	79校
	受験者数	16,206人	16,831人	19,069人	20,083人	22,725人
B	参 加 校	26校	35校	43校	47校	47校
	受験者数	5,269人	6,807人	9,873人	11,375人	10,224人
受 験 校 延 べ 数		92校	105校	119校	123校	126校
受 験 者 総 数		21,475人	23,638人	28,942人	31,458人	32,949人